

令和

〜新しい時代の幕開けへ〜

新たな時代を迎えるにあたって

元号が平成から令和となり、新しい時代が始まりました。

令和は、万葉集にある『初春の令月にして、気淑く風和ぎ、梅は鏡前の粉を披き、蘭は珮後の香を薫す』との文言から引用したものとされています。

国文学者の中西進氏は、「ら行音は美しいから「令和」の読みが「ら行」で始まるのはいい。「令」は、善いという意味で、「令」のつく漢字には「玲」（玉のよいうな美しさ）や「怜」（心の美しさ）などがあり、その内容や響きもいい。また、「和」は、1400年前に聖徳太子が平和憲法として作った十七条憲法の第一条「和をもって貴しとせよ」を思い浮かべる。その和の精神があつて善いから「令和」となり、それを日本語でいうと「美しい」となるだろう。「古事記」が（大和は素晴らしい国どころ）記した「大和しうるわし」の「うるわし」がそれで、和の尊敬されるべき良き、整頓された美である。

大きく正しくあろうとした「大正」では第一次世界大戦が起こり、和をあきらかにしようとした「昭和」では、また戦争を起こしてしまいました。

そこで、天と地が無事であるよう、平和であるよう願う「平成」となり、天皇陛下は、「近代国家において初めて戦争を経験せぬ時代を持ちました」と振り返られた。

新元号「令和」は、和をさらに強調することにより、令という麗しき和を築くことです。」と語っています。（長文のため要約させていただきました。）

五月一日には、町民の皆さま一人ひとりが、それぞれの希望や想いを持ち、令和元年を迎えられたことと思います。

町内の小中学校では、「ありがとう平成」そして「こんにちは令和」の人文字をつくり、児童・生徒・教職員全員で新たな時代「令和」をお祝いしました。

新元号「令和」については、その元号がもつ意味に敬意を表し、利根町においても、行政の総合計画やビジョンなどとは別に、「令和」の持つ意味を文化目標としてとらえ、争いごとをなくし、町民みんなが協力・調和し、美しく、心あたたまるような善い町にしていかなければならないと強く感じております。

令という麗しき和を築きあげる新たな時代を皆さまとともに迎えられますことを喜びとし、利根町民の皆さまが、平穏で心豊かな生活が送れるようご祈念申し上げ、新たな時代「令和」を迎えるにあたってのお祝いの言葉とさせていただきます。

令和元年吉日

利根町長 佐々木喜章



町内小中学校の全児童・生徒たちが、それぞれ「ありがとう」「平成」「こんにちは」「令和」の人文字を作りました。上の写真は、利根中学校全校生徒による新元号「令和」の人文字（平成31年4月19日撮影）



令和の時代が、
皆さまにとって
平穏で心豊かな
生活が送れる
時代となります
ように

※今月の「シリーズまち・ひと・しごと」は、お休みさせていただきます。